



TITLE:

一九二一年中の英領印度労働争議

AUTHOR(S):

柴田, 規矩三

---

CITATION:

柴田, 規矩三. 一九二一年中の英領印度労働争議. 經濟論叢 1922, 15(4): 637-639

ISSUE DATE:

1922-10-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127947>

RIGHT:

# 東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第五十卷 第四號

大正十一年十一月一日發行

## 論叢

傳統派の社會連帶思想

文學博士 米田庄太郎

時機尙早なる社會革命の企

法學博士 河上肇

階級に就いて

文學博士 高田保馬

經濟と自由

經濟學士 堀經夫

## 時論

物價調節問題

法學博士 河田嗣郎

營業稅論

法學博士 小川郷太郎

## 說苑

租稅負擔の地方別研究

法學士 汐見三郎

## 雜錄

一九二一年英領印度勞働爭議

法學士 柴田規矩三

小賣相場と卸賣相場

法學士 汐見三郎

# 雜 錄

## 一九二一年中の英領

## 印度勞働爭議

柴田 規矩三

晩近各國勞働爭議の頻發せる事今更こと新しく述ぶる迄もなき處なるが、比較的此種爭議の發生少かりし印度に於ても、最近勞働者の自覺と諸物價騰貴に伴ふ生活の壓迫とは彼等をして漸次世界の大勢に従はしむるに至り、加ふるに對英國政府非協同一派の政治運動も、直接間接

勞働者に勢力を及ぼし、茲に勞働爭議の發生漸く多からんとするの傾向あり。今、昨年度に於ける勞働爭議の狀況を印度政府勞働局の集むる處の統計を基とし、之れを地方別及勞働者の從事する業務別に依り示せば次表の如し。  
茲に注意すべきは印度に於ては、此種の統計は正確なるものを得る事甚だ困難にて、各州よりの報告と雖も發生せる爭議の全部を網羅せるものと見ることは能はず、殊に當局は出來得る限り正確を期しつゝありと雖も、罷業人員及び日數等に於ては尙且つ近似數たるを免れざるなり。乍然印度勞働爭議の大體の趨勢を察知するには、決して不足なし。

## 第一、地方別勞働爭議

州名	爭議内容	罷業件數	罷業人員	罷業延日數
Assam		1	1000	1000
Bengal		11	11,111	11,111
Bihar and Orissa		2	2,222	2,222
Bombay		11	11,111	11,111
Burma		11	11,111	11,111
Central Province		1	1,111	1,111
Madras		11	11,111	11,111
Punjab and Delhi		1	1,111	1,111
United Province		11	11,111	11,111
合 計		50	5,000	5,000



